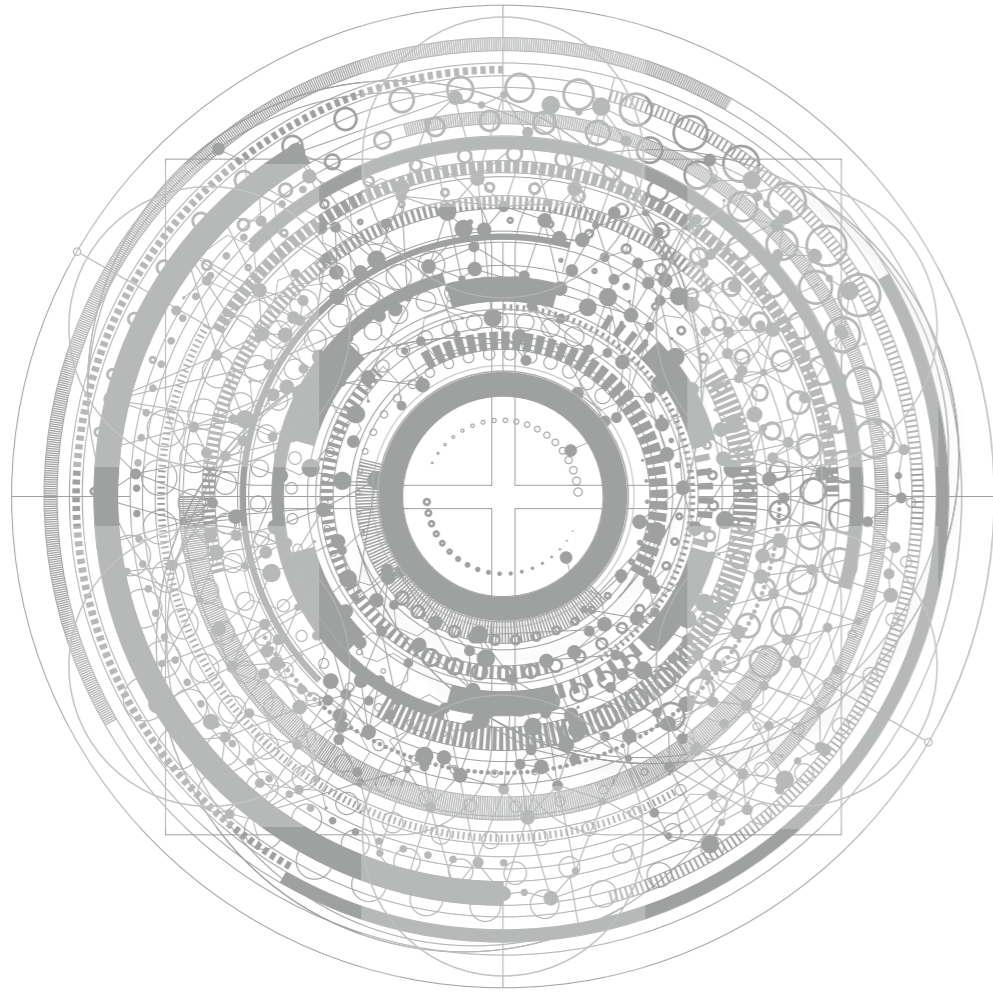


東京大学 エグゼクティブ・マネジメント プログラム



東京大学 エグゼクティブ・マネジメント プログラム



東大EMP事務局
東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム
〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号 伊藤国際学術研究センター2階
mail: info@emp.u-tokyo.ac.jp URL: www.emp.u-tokyo.ac.jp





最高峰の知で鍛えられる 「マネジメント」の未来

— 東大 EMP への招待状

東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム。日本の未来を担うエグゼクティブに、知のマネジメント・スキルをプログラミングする「場」の名称です。

ここで起こるのは、これからのあなたを変えてゆく、不可逆でダイナミックなプロセスです。例えばここは、あなたがこれまで築き上げてきた思考の枠組みを強化しません。むしろそれをいったん解体し、改めて組み直す努力を強いるでしょう。知識を増やすこと自体は目的ではありません。さまざまな学問の最先端を支える思考のあり方、その理解と体得が目的です。最終的にめざすのは「課題解決能力」の獲得ではありません。そのさらに上流にあって社会や未来を拓いていく「課題設定能力」の獲得なのです。課題解決よりも課題設定が大切である、そのような予感や問題意識を持って企業や組織の要職に就いているリーダーたちにこそ、東京大学が抱える叡智を凝縮した、少数精鋭向けのプログラムは開かれています。

ようこそ、東大EMPへ。



東大EMPの使命

東京大学は、この激変する世界において日本の最高学府としての使命と責任を果たすべく、2008年10月、社会人向けの講座「東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム」(東大EMP)を開講しました。それは、従来の教養講座でもMBAプログラムでもありません。東大が新たな時代に向けて編み出したリベラルアーツとマネジメントのあり方を伝授し、たえず変化する複雑な世界の仕組みを理解しつつ、自ら課題を発見し、形成し、更新して、多様な人々と協働しうる資質を醸成します。このような唯一無二のプログラムを通して、東大は自らの学術的資源を総動員し、すでに500人を超える修了生を産業界や官公庁、その他の組織から迎えて育成してきました。今後も東大EMPはプログラムを充実させ、世界の将来に貢献しうる人材を養成していきます。



見えている課題を直視し 見えていない課題を可視化する

今日の世界では、ありとあらゆるものがネットワークで結ばれ、互いに複雑に影響し合い、無関係ではられません。そのため、次になにが起こるかを予測し、将来を見通すことは本質的に困難です。従来の手法や経験はもはや通用せず、どこにどのような課題が存在しているのか、あるいは新しい可能性が潜んでいるのかを捉えることはできません。目の前に現れた問題に対処するだけでは、結局のところ、時々のある出来事に振り回されるだけに終わるでしょう。このような世界においては、単に課題を解くだけではなく、新たに描き出す「課題設定能力」—自ら問いを立てる力を身につけたリーダーが求められます。ここには、現代の世界で直面する課題や可能性を表す主要なキーワードを集めてみました。あなたなら、これらからどのようにオリジナルな課題を組み立てますか？

グローバル社会と多極構造

- 地球温暖化
- 持続可能な開発目標 (SDGs)
- 多文化共生
- グローバルな連帯
- マイクロプラスチック
- 食品ロス
- 低炭素社会
- パンデミック
- ポスト資本主義
- 民主主義の危機
- ポピュリズムの台頭
- ポストトゥルース
- グローバルヒストリー
- ナショナリズム
- 欲望
- 格差の拡大
- テロリズム
- 移民と難民
- 人間の安全保障
- ヴァナキュラー
- グローカル
- 循環型経済
- バイオエコノミー
- 共有型経済
- ディーセントワーク
- 知識社会
- 多言語主義と複言語主義
- ESG 投資
- クラウドファンディング
- マイクロファイナンス
- 仮想通貨・電子マネー
- MOOC

科学・技術の飛躍的発展

- 超弦理論
- 大統一理論
- ヒッグス粒子
- ダークマター
- ダークエネルギー
- ブラックホール
- 重力波
- 太陽系外惑星
- 生命の起源
- ナチュラルヒストリー
- 生物多様性
- 人類進化
- ゲノム編集
- 胚細胞
- 再生医療
- 先制医療
- ウェアラブル
- 仮想 / 拡張 / 複合現実 (VR/AR/MR)
- モノのインターネット (IoT)
- オープンソース
- ビッグデータ
- 人工知能 (AI)
- ディープラーニング
- スーパーコンピュータ
- シミュレーション
- 量子コンピューター
- ナノテクノロジー
- レーザー加工
- 高温超電導
- 複雑系
- 地球システム
- 再生可能エネルギー
- 原子力発電
- トランスサイエンス
- 市民科学
- 科学コミュニケーション

精神性への回帰

- 正義
- ポストヒューマン
- ニヒリズム
- 脱構築
- 人間中心主義
- シティズンシップ
- コモンズ
- 公共空間
- 合理的配慮
- ポリティカルコレクトネス
- ユニバーサルデザイン
- バリアフリー
- マイノリティの権利
- LGBTQ
- ジェンダー
- ポリフォニー
- ヴァルネラビリティ
- レジリエンス
- マインドフルネス
- 対話
- 他者
- 赦しと和解
- 想起の文化
- スピリチュアリティ
- 東洋思想
- イスラム思想
- 自然との調和
- ワンヘルス
- ウェルビーイング
- 生命倫理
- ディープエコロジー
- 人新世
- 環境倫理
- 子どものための哲学

日本社会の未来

- 社会システムデザイン
- Society 5.0
- 課題先進国
- 超スマート社会
- 少子化
- 未婚・非婚
- 人口減少
- 地方創生
- モノ作り
- 関係人口
- 超高齢社会
- 健康寿命
- 認知症
- 終活
- 無縁死・孤独死
- 地域医療・遠隔医療
- 格差と貧困
- 雇用の流動化
- ひきこもり
- 非正規労働
- ブラック企業
- リモートワーク
- 外国人労働者
- 副業と兼業
- ソーシャルビジネス
- エシカル消費
- ゴミ問題
- 企業の社会的責任 (CSR)
- 社会的包摂
- 災害の激甚化
- 社会インフラ
- 主体的な学び
- 生涯学習
- EdTec
- STEAM 教育

リベラルアーツと マネジメントから生まれる 思考の渦

かつてなく先行きが不透明な時代、身につけるべき武器として、リベラルアーツとマネジメントの重要性が叫ばれています。しかし、互いの関係が見えない、単なる幅広い教養的な知識なら、変転する現実には到底対応できません。また、近視眼的な対応の積み重ねでは、ものの本質を捉えることはできません。これから必要なのは取り組むべき課題に対して、両者の間を自由かつ果敢に行き来できる逞しい実践知です。往還であれ、その先の融合であれ、一体化であれ、そこには常に生身の、あるいはドロドロとした、未だ確かな形を持たないもの、知り得ないものへの畏敬を込めた探究的精神が必要になることでしょう。あなたがリベラルアーツとマネジメントから手にするものは、思考の渦を通じて、複雑に絡み合う不可視の世界を拓いていく、課題発見、課題形成、そして課題更新能力に他なりません。



現実の複雑な絡み合いを把握し、課題を発見する

一口に課題と言っても、さまざまな解釈がなされます。すでにさまざまな方法や技術によって、解決へのフェーズに進んでいるもの、あるいは課題をさまざまな視点で捉え直し更新されたもの、さらにまったく新しい課題として見つけ出されたもの。いずれにしても、ネットワークによって拡張し続ける世界の中では、多様性に富んだ人々と複雑に絡み合う自然や社会現象

これまで以上に多くの課題の材料が際限なく生み出されています。自然や人間を探究するリベラルアーツと、単なる管理ではないマネジメントの本質との行き来により、あなたはきっと自らのマネジメントを問い直し、因果律や科学のみに囚われることのないトランスサイエンス的な視点からも、社会や経営における「課題の発見」へと踏み出すことができるはずです。

多様な人たちと協働し、課題を形成する

現代のようにさまざまな要素が絡み合う世界の中では個別の現象に目を奪われてしまい、全体を捉えることができず、たとえ個別の出来事や問題をどれほど厳密に細かく分析しても、それは結局一面的な捉え方になります。一つの問題の背後でどのような要因が関連し合い作用しているのか、その全体的な仕組みを粘り強く認識しなければなりません。しかしながら、そうした認識は

ときとして独りよがりになる傾向も含んでいます。やるべきことを他の人々にも分かるように示し、共に実行できるような形に創り上げていくこと。しかも、より複雑に絡み合った問題に対しては特定の分野の人たちだけではなく、積極的に産学官民の多様な人たちと協働し、強靱かつ柔軟な「課題の形成」に取り組んでいくことが必要になります。

課題を更新し、強靱なマネジメント力を身につける

リベラルアーツとマネジメントを行き来することで得られる課題発見、形成、そして更新能力。この一連のフィードバックループが、リーダーであるあなたにとっての至要たる思考の渦をつくり出します。それこそが、個人の、また組織や社会における動的なシステムを動的なままに捉えることのできる先端の思考です。その渦は多くの課題を巻き込む力にもなり、新しい課題の発見や

形成へとつながります。個人の課題、経営の課題、社会の課題いずれに対しても、自ら主体的に関与し、他者に自らを開きつつ、形成された課題に囚われず、何度も何度も「課題の更新」を繰り返すことで自己もたえず更新されます。先端の思考を身につけ、そして不可視の課題や可能性を拓いていくことで、あなたのマネジメント力は強靱なそれへと鍛えられていきます。

鍛えられたマネジメントで挑む 不可視の課題と可能性

— 東大 EMP が掲げる中核的課題と6つのテーマ

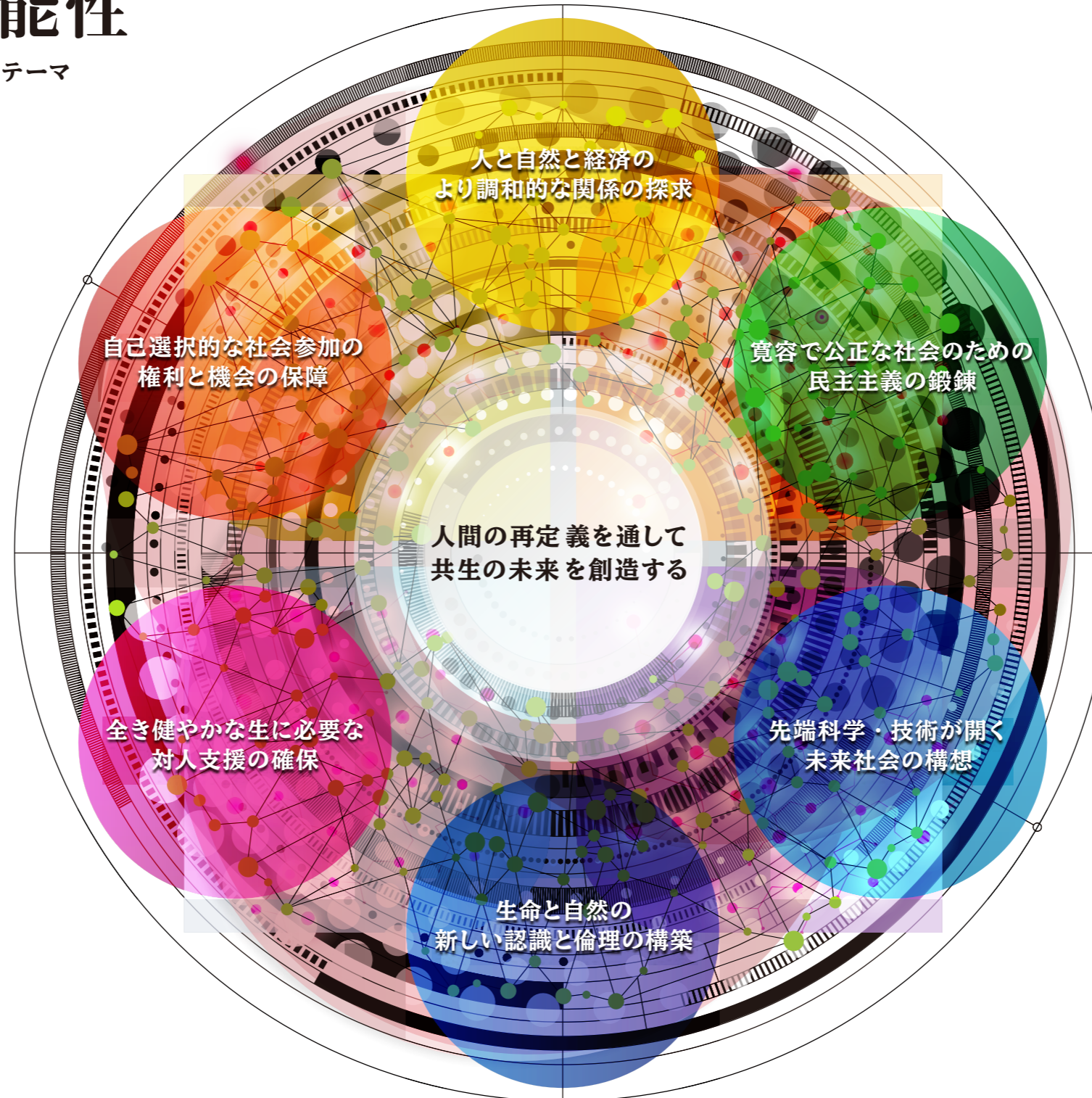
東大EMPには、プログラムの全体を象徴する「曼荼羅」があります。曼荼羅は、私たちが議論すべき中核的課題と、そこにアプローチするための6つのテーマからなります。これらは、私たちが生きる世界を見る視点であり、課題を見つけ考えるための論点であり、プログラムの内容と構成を導く方針です。

曼荼羅はまた、たえずそこに立ち返るための、あなたの思考の強力な参照軸ともなるでしょう。東大EMPで最終的にあなたが取り組むことになる「知の統合演習」というグループワークにおいては、これらのテーマを手がかりにして他の受講生と共に問題を分析し、その背後に隠れているソリューションスペースを見つけ出し、それを基にして新たな課題を設定します。そうしてこの世界をよりよい未来へと変革する可能性を切り拓くのです。

私たちが取り組むべき中核的課題

● 人間の再定義を通して共生の未来を創造する

私たち人類は近代以降、空前の繁栄と力を手に入れたが、他方でそのことがまさに多くの難題を引き起こし、私たちが追い求めてきた諸価値を揺るがしている。ここであらためて「人間とは何か」を問い直し、進むべき方向を根底から考え直さねばならない。そうして多様な人たち、異なる文化が共に生き、自然と人間と技術が調和する豊かな未来をさまざまな立場から創造していくことが、いま私たちが取り組むべき最も根本的な課題である。



中核的課題に取り組むための 6つのテーマ

- 人と自然と経済のより調和的な関係の探求
資本主義は一方で世界に豊かさをもたらしたが、他方で自然を取奪し、貧富の格差を広げており、グローバル化によってそれが加速している。人と自然と経済とのバランスのとれた関係はどのようなものか。そこで私たちはいかなる豊かさをめざすのか。
- 寛容で公正な社会のための民主主義の鍛錬
人々の権利と自由を守るはずの民主主義が変質し、社会のあちこちで排除と分断を引き起こしている。この危機を乗り越え、お互いの立場や生き方が尊重され、寛容で公正な社会を築いていくためには、民主主義をどのように鍛えていけばよいのか。
- 先端科学・技術が開く未来社会の構想
科学とテクノロジーの途方もない発展は、世界を根底から変えるような可能性と同時に、予見しがたいさまざまな危険をもたらしている。その間で地球と人類の双方にとって持続可能で希望ある未来を築いていくには、どのようにすればよいのか。
- 生命と自然の新しい認識と倫理の構築
生命に対する理解と操作技術が飛躍的に向上したことで私たちの生命観は大きく変わり、地球や宇宙など自然のありようについての認識も劇的に進んだ。今後私たちは生命や自然に対してどのような価値観と倫理観をもって関わっていくべきか。
- 全き健やかな生に必要な対人支援の確保
個々人の生活の安寧に不可欠な医療や福祉が、社会にとって大きな負担とされている。ケアが必要な人が十分な支援を受け、そこに関与する人も守られ、誰もが尊厳をもって生きられる社会の仕組みをどのように作っていけばよいのか。
- 自己選択的な社会参加の権利と機会の保障
今日なお多くの人が、年齢、性別、健康、貧困、居住地域、国籍等を理由に、社会参加の基本となる教育や労働の権利と機会が十分に保障されていない。誰もが自分の生き方を追求できる公平な世の中を実現するには、どうすればよいのか。

思考の渦を作り出す装置としての 東大EMP

— 相互連鎖で常に更新する3つのメソッド

1
複雑な世界から
課題を発見する
「動的思考法」

2
多様な能力の協働で
課題を形成する
「知の統合演習」

3
「知る、問う、書く」で
課題を更新する
「思考の身体化」

複雑な現実を読み解いて課題を発見し、形成し、さらには更新していくためには？ 東大EMPでは、そのような資質や能力を開拓し涵養するためのメソッドを開発し、進化させてきました。それは変化しない硬直化したメソッドではありえません。折々にマネジメントの世界へと持ち帰られ、あるいは還流し、その往還の中で、時代や時勢に応じた最新の状態へ更新を続けているのです。それらのメソッドは半年間のプログラムの中に、動的に相互連鎖しています。

● 複雑な世界から 課題を発見する「動的思考法」

たえず変化する世界を理解するために必要なのは、物事を一つひとつ独立した現象として捉えるのではなく、様々な要因がダイナミックに作用し合っている“動的なシステム”として捉えるための視点です。あなたがその背後にある根本的な構造を見極められるならば、一見複雑に見える現実に対しても有効に作用する課題を“発見”することができるはずです。この一連の認識と把握のプロセスこそが、課題を発見する「動的思考法」です。

● 多様な能力の協働で 課題を形成する「知の統合演習」

半年間のプログラムの後半では、受講生はグループに分かれて「知の統合演習」に取り組みます。これは、今日私たちが直面する諸問題に対して、動的思考法によって課題を発見するだけでなく、それが広く理解され、皆の課題として認識されるよう整えていく作業です。具体的かつ普遍性ある解決策を引き出す優れた課題を“形成”するために、あなたは多様な人格とバックグラウンドをもつ受講生と協働することになります。各人の知見と経験を活かしながら、議論し、協働し、そして格闘していくことで、自ずと課題を形成するためのすべを手に入れることでしょう。

● 「知る、問う、書く」で 課題を更新する「思考の身体化」

東大EMPでは、東京大学の研究者をはじめ各分野の第一人者から、圧倒的な知の洗礼を受けます。こうして既存の思考の枠組みを揺るがされた後、受講生は「問うワーク」と「書くワーク」によって、新たな思考を各自で組み立てていきます。この「知る、問う、書く」は、講義時も「リキャップ」と呼ばれる振り返りでも「知の統合演習」においても飽かず繰り返されます。その習熟が「思考の身体化」であり、認識と行動に染み込んで、あなたが構想するその課題を自ずから“更新”していきます。

知の最先端に集約された 唯一無二のプログラム

ここに見られる無数のキーワードは、総数100を超える東大EMPの講義・研修の内容から抽出されたものです。すでに答えのわかっている問題ではなく、各講座の講師が自身研究者として取り組む、知のエッジに浮かび上がる問題群といえます。受講生は講師と共にそこに飛び込み、格闘し、多様な学問分野における問題意識を自らのうちに取り込むとともに、さまざまな思考のフレームワークを体得することが期待されます。一つひとつが知の奥深さを秘め、総体としては知のシナジーを構成する、東大EMPのみが提供しうる「唯一無二」が、あなたの眼前に広がります。

再生医療、ES細胞、iPS細胞、器官形成、
観測的宇宙論、宇宙のスケールモデル、超新星爆発、
太陽系外惑星、
イデオロギー的分極化、トランプ現象、ポピュリズム、
反エリート主義、
自然言語、普遍文法、生成文法、言語獲得装置、
文法中枢、fMRI、
量子コンピューター、量子テレポーテーション、
グローバルヒストリー、ヨーロッパ中心史観、
カオス、複雑系、感染症伝播、癌治療、
AI・脳型コンピューター、和解、相生、根源悪、赦し、

機会費用、限界概念、効率性、
美的価値、欲望の解放、自己と他者をめぐる問題、
ケミカルバイオロジー、蛍光プローブ、内視鏡・腹腔鏡手術、
ゲノム、エピゲノム、メタゲノム、遺伝病、がん遺伝子、
がん抑制遺伝子、
生活習慣病、遺伝子検査、出生前診断、産み分け、
情報セキュリティ、サイバー戦争、標的型攻撃、個人情報漏洩、
共生、生成変化、論理と倫理、スピリチュアリティ、
環境劣化、人口爆発、
量子力学、超伝導、ナノサイエンス、相転移、創発現象、
ポスト世俗化、

宗教概念の多様性、国家と宗教、
地球温暖化、気候変動、水ストレス、食料自給率、
外部不経済、緑の革命、
商売と虚偽、
人生100年時代、サクセスフルエイジング、
ジェロントロジー、生涯現役社会、Aging in place、
エンドオブライフ、自己決定、人間関係のメンテナンス、
産業競争力、プラグマティズム、
病院経営、医療保険、
立憲主義、法の支配、司法審査、
機能的食品、特定保健用食品、味覚センサー、
コーラン、スナ、ハディース、ウラマー、
暗黙知、対話、philosophyとphilosophize、
モラル、共感性、適応エージェント、マイクロ-マクロ関係、
放射能測定、
正確さとは何か、誤差論
ソフトマター、ポリマー、超分子、エントロピー弾性、
バイオマテリアル、
創発性、自己組織化、不安定現象、群れの科学、
森林の多面的機能、低コスト造林、二酸化炭素吸収源、
アイデア、対話、想像力、
カタストロフィー、システム、
越境性家畜感染症、食の安定供給、農場セキュリティ、
病原体検出法、摘発淘汰、OIE、清浄国、動物福祉、
遺伝子発現、セルアッセムブリー、
バイオエコノミー、バイオマス利用、SDGs、ESG 投資、
メタボリックシンドローム、生活習慣病、
現代生活ストレス、AIM、
覚り、自他不二、今を生きる、
パーチャルリアリティ、VR ジャーナリズム、AR、MR、
対称性、マルチフェロイクス、光物性、磁気秩序、中性子回折、
GMO、遺伝子組換え、種子戦争、地球環境保全、
電力自由化、卸電力取引市場、再生可能エネルギー、
スマートグリッド、
イスラーム主義、政治思想、規範理論、ジハード、
トランスレーショナルリサーチ、ウィルス療法、がん治療、
アカデミア発創業、

ナノ構造、X線計測、散乱、分光、イメージング、
秘密、「かのように」、
中国外交、東アジアの安全保障、内政と外交の連動、
脱亜論、朝貢冊封、
看護、生活者、日常生活行動援助、
細胞内小器官、細胞内分解、オートファジー、プロテアソーム、
分子疫学、認知症、先制医療、バイオマーカー、
エマージングウイルス感染症、新興・再興感染症、
人獣共通感染症、
Creative Destruction、豊益潤福、
Collective distributed innovation、
value-in-use、ローカルインテグレーター
天然有機分子、全合成、構造制御、
素粒子、ヒッグス、LHC、宇宙創成、超対称性、
インド哲学、宗教との一体性、寛容精神、包括主義、多元主義、
ナノテクノロジー、新素材、
ニュートリノ、素粒子の標準理論、大統一理論、
医療産業イノベーション、オープンイノベーション、
デジタルヘルス、体内病院、医療の自動化、規制先進国、
ヒューマンコンピュータインタラクション、
擬人化エージェント、
国際秩序、リベラリズム、道義、
科学と医学の思想史、日本の近代化、12世紀ルネサンス、
シティズンシップ、主権者教育、
量的・質的金融緩和、ゼロ金利政策、長期停滞、
発達障害、多様性の理解、福祉システム、合理的配慮、
超高温プラズマ、核融合炉、ITER計画、
光吸収、レーザー、
サーキュラーエコノミー、シェアリングエコノミー、3R、
分子構造解析、X線結晶構造解析、創薬、
世論と外交、
光量子、光通信、原子時計、量子情報技術、
微小球光共振器、メタマテリアル、
ローカルとグローバル、地域経済活性化、
マイクロフルイディクス、深海微生物、分子プログラミング、
エネルギーセキュリティ、次世代電池、
言語としての数学

自由な討議や交流を体感する 空間と時間

一流の研究者との交流

第一線の研究者と自由闊達に議論し、知的な交流を深めるさまざまな機会があり、どんなテーマでも臆することなく話せるようになります。

美を探究するサロン

非言語的な美の感覚を養うために、音楽、美術、古典芸能など、さまざまな分野で活躍する芸術家や文化人たちとの交流を深めます。

外国人研究者との対話

東京大学を訪問する世界的に著名な研究者を招いての特別講義や、東京大学に在籍する外国籍の研究者とのトークセッションを行います。

座学に留まらない現場体験

東京大学のすべてのキャンパスに赴き、最先端の研究がどのようなスタッフ、施設、そして組織によって支えられているのか、その現場を体験します。また、天体観望や坐禅などの体験もあります。

修了生によるモデレータ制度

修了生は、講師と受講生をつなぐモデレータとして講義に参画し、東京大学と共にプログラムの進化を担います。

EMPコミュニティのネットワーク

受講生は、修了後に同窓会「EMP倶楽部」のメンバーとなります。そこでは修了生同士のネットワークを広げ、東京大学の教員を中心とする学内外の講師陣とつながって、さまざまな形でコラボレーションをすることが可能です。

「東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム」への期待

優れた課題設定能力を備える者こそが次代を切り拓くリーダーとなる。東京大学ではそのように考え、2008年に社会人を対象とした教育プログラムである東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（東大EMP）を開講しました。

課題設定と課題解決は、まったく異なる概念です。課題解決とは、文字通り、課題を解決することです。なにか課題が与えられた時にそれを解決していく力は、言うまでもなく大事な力です。私たちが日々の仕事の中で出会うほとんどの事柄は、そのような課題解決能力によって対応することができるでしょう。しかし、変化が激しく、また対応すべき対象がますます複雑化するいま、課題そのものが分からない時には、対応できなくなってしまう。リーダーは、先頭に立つ者として誰もが経験したことのない、未知の事象とも対面せざるを得ません。誰よりも早くその事象の本質を捉え、解くべき課題の形に落とし込み、それを人々に示していく。これこそが、現代のリーダーに必要とされる課題を設定する力です。

真に有用な課題設定を行うためには、複雑に変化する事象の本質を捉えて分析し、そこにある問題を見抜くだけでは不十分です。広大な知の世界から関連する知識や考え方を拾い出し、それらを組み上げて新たな課題に作り変えることが必要です。この知を統合する力こそが課題設定能力の本質であり、リーダーが身につけるべき新たなマネジメント力だといえます。

東京大学には、それぞれのやり方で新しい知の地平を切り拓く優れた研究者が集まっています。彼らもまた、未知の世界に挑むリーダーたちです。彼らとの対話を通じて知の最先端を俯瞰するだけでなく、どのようなやり方で新たな課題を見出しているのかを学ぶことは、課題設定能力の涵養に大いに役立つはずです。

東大EMPが提供するの、幅広い学問分野の第一線で活躍する研究者と次世代のリーダーとなるべき人材が出会い、互いに高め合っていくことができる唯一無二の「場」です。そこにはこれまで、大企業だけでなく、中小・ベンチャー企業、そして行政機関やプロフェッショナル・ファーム等から高い志を持つ優れた受講生が参加してきました。修了生のみなさんが東大EMPで学んだ幅広い学術知を俯瞰する視点と新たなマネジメント力としての課題設定能力を活かし、共に地球と人類社会全体を豊かなものとしていく、そのような未来への協創がさらに深まることを期待しています。

東京大学総長 EMP チェア 藤井 輝夫

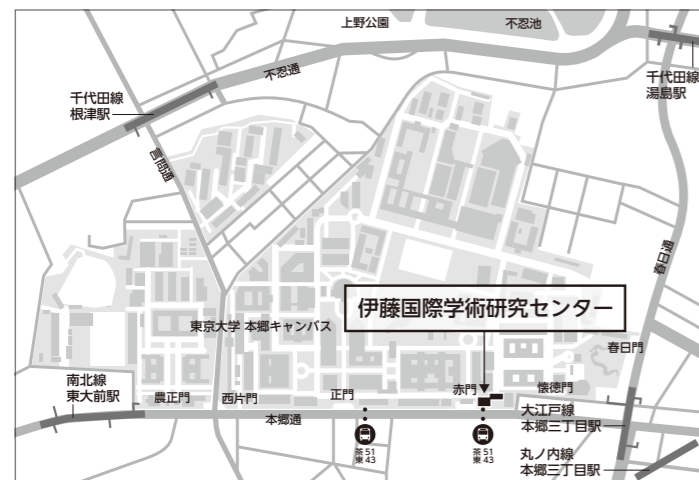


東大 EMP 講義会場

講義の大部分は東京大学本郷キャンパス内にある伊藤国際学術研究センターで行われますが、東京大学の他の施設（駒場キャンパス、柏キャンパス、弥生キャンパスなど）も活用します。



伊藤国際学術研究センター



アクセス

専用の駐車場はありません。お車でのご来場はお断りしています。公共交通機関をご利用ください。

電車・バス 最寄駅

- ・本郷三丁目駅
東京メトロ 丸の内線 — 徒歩 5 分
都営地下鉄 大江戸線 — 徒歩 5 分
- ・湯島駅又は根津駅
東京メトロ 千代田線 — 徒歩 15 分
- ・東大前駅
東京メトロ 南北線 — 徒歩 10 分
- ・東大赤門前 バス停
都営バス 東43・茶51 — 徒歩 1 分



東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 7 丁目 3 番 1 号 伊藤国際学術研究センター 2 階
mail: info@emp.u-tokyo.ac.jp URL: www.emp.u-tokyo.ac.jp

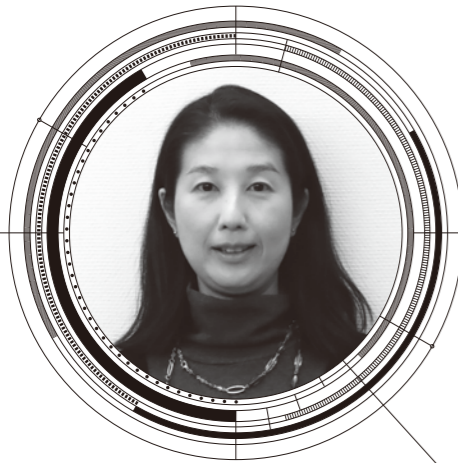


東京大学 エグゼクティブ・マネジメント プログラム

[第 26 期プログラム]



東大 EMP 修了生の声



目先の業務や日々勃発するタスクと追い駆けこする自分のままで良いのか、ふと立ち止まった時に会ったのが東大EMPでした。激変する経済社会を前に、自分の強みは何だろうと不安に感じていた私は、「40代というキャリアの折り返し点で今後の30年を乗り切るための土台となる強靱かつ新たな思考能力を身につける」主旨に強く惹かれたことを覚えています。世の中に自分の知らないことがいかにたくさんあるか。東大EMPで体得した「知らない実感」という不思議な平衡感覚は、ビジネスでも良い意味での警戒態勢に自分を置く規律になります。物事の表層に惑わされず多面的に思考しつつも、何事も完全に掌握することはできない実感があるからこそ、覚悟を決めてアクションを起こす、そんな原動力です。

[11期修了生] 下城理重子

東大EMPの中核課題である“地球の持つ自己調節能力以上に巨大化する人類活動の持つべき自己規律の動的体系化”は、最初は難解すぎて自分の思考に引っかかることさえありませんでした。コースがスタートし、知の森のような講義群をシャワーのように受けるうちに、ここに広範かつ膨大な課題が凝縮されていることに驚きましたが、修了後10年近くたった今でも、それがますます自分の両肩に重みを増してのしかかってくる課題を表し続ける新鮮さに驚愕する現在があります。本質を突いたものは滅多に色褪せることがないことを知ってはいても、それは具体的にどんなものなのか。東大EMPは本質の何たるかを体感するスイッチが入る、特別な場となるでしょう。

[8期修了生] 関根千津



いまや500名を超える修了生の活動は、同窓会「EMP倶楽部」を核として、懇親会・ゴルフに家族旅行、相互の勉強会から講師の指導を受ける硬派な論文塾まで、自発的かつ実に幅広く展開されています。この「修了生と東大教員との相互交流を軸とした自発的な終身学習プログラム」を東大EMPの本体と呼んでもいいでしょう。ただし、このコミュニティを楽しむ尽くすにはいささかユニークな方法論が必要で、それを集中的に体得するブートキャンプが6か月間の東大EMPプログラム。ここで苦楽を共にした学友としての連帯感と、発現した学びの受容体が次の学びの場を求めるエネルギーは、忙しい大人たちをかくも仲良く飽きもせず集わせ続けているのです。

[1期修了生] 林竜也

東大 EMP 講師の声



東大EMPではさまざまな学問の先端分野について、最新の知識を得ることができます。しかし、それは手段であって目的ではありません。受講を通じて、現実の中から、これまで明瞭には指摘されてこなかった問題を発見する深く広い思考力を養うこと。その問題を多くの人に通ずる言葉で明晰に表現すること。そして、問題をよりよい方向に解決するための課題を適切に設定し、課題を解くのに必要な条件を見きわめること。こうした問題発見と課題設定の力、それらを表現する言語・意思疎通能力をこれまで以上に高めることが東大EMPの目的です。修了後には、それぞれの現場に戻り、新しい問いを、使い古されたのではない言葉で立てることによって、真に解くべき課題に取り組みされることに期待します。

経済学研究所 教授、東京大学アジア研究図書館長 小野塚知二

東大EMPでは6ヶ月にわたってさまざまな学問分野の根源的な問いかけに迫り、最先端の研究成果や今後の展望を学ぶことができます。東京大学の財産である「知」に浸り、自ら活用する機会にも恵まれるでしょう。座学の講義以外にも豊富な体験プログラムが用意されており、ワークショップや研修を通して新たな観点や思考法を得ることができます。東大EMPでは受講生と講師陣、さらに修了生や事務局が一体となって文字通り唯一無二のソサイエティを作りあげており、修了後の活躍の場の一つにもなっています。

理学系研究科 教授 吉田直紀



東大EMPで目指していただくのは総合知の獲得です。様々な分野の講義があり様々なネタが仕入れられます。しかしネタを知るだけでは「クイズの東大王」になってしまいます。様々な分野の講義が用意されているのは、分野により事象の捉え方、問題設定の仕方が異なるからです。深く広い思考力はトリア知識の数で決まるわけではありません。事象の見方・問いの立て方が既存の特定の枠にとらわれないことによって得られるものです。既存の枠組みから解放され思考の自由度を高めること、それが“リベラル”アーツとしての東大EMPが提供する本質です。

医学系研究科 教授 橋本英樹

東大 EMP 講師陣

東大EMPでは、東京大学の研究者を中心に、国内外のビジネス経験者、およびプロフェッショナルで構成された、最高水準の講師陣を揃えています。外国人講師陣の構成には、総長への諮問機関であるグローバル・アドバイザー・ボード・メンバー、各国大使館や、日本在住の専門家等の協力を得ています。加えて、東京大学を訪問する重要人物や経営者から、適宜本プログラムへの参画が行われます。第25期プログラムの東大EMPの主な講師陣は次の通りとなっています。

東京大学講師陣 [第25期プログラム]

藤井 輝夫	東京大学総長、 東大 EMP チェア
(以下五十音順)	
合原 一幸	東京大学特別教授、東京大学名誉教授、 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス 国際研究機構 副機構長
浅井 祥仁	理学系研究科 教授
浅島 誠	東京大学名誉教授、 帝京大学先端総合研究機構副機構長・ 特任教授、 筑波大学理事、日本学術振興会 学術 顧問
雨宮 慶幸	東京大学名誉教授、 公益財団法人 高輝度光科学研究センター 理事長
有馬 孝尚	新領域創成科学研究科 教授
飯島 勝矢	高齢社会総合研究機構 教授、 未来ビジョン研究センター 教授
家 泰弘	東京大学名誉教授、 中部大学理事・副総長
幾原 雄一	工学系研究科 教授
池内 恵	先端科学技術研究センター グローバルセキュリティ・宗教分野 教授
石井 菜穂子	東京大学 理事、 グローバル・コモンズ・センター ディレクター、 未来ビジョン研究センター 教授
石田 英敬	東京大学名誉教授
磯貝 明	東京大学特別教授
市川 裕	東京大学名誉教授
井出 哲	理学系研究科 教授
伊藤 耕三	新領域創成科学研究科 教授
稲見 昌彦	先端科学技術研究センター 教授、 情報理工学系研究科 教授
岩田 忠久	農学生命科学研究科 教授
宇野 重規	社会科学研究所 教授
梅田 靖	工学系研究科 教授
浦野 泰照	薬学系研究科 教授、 医学系研究科 教授
江崎 浩	情報理工学系研究科 教授
遠藤 貢	総合文化研究科 教授
大橋 弘	東京大学公共政策大学院 院長、 経済学研究科 教授
岡村 定矩	東京大学名誉教授、 東大 EMP エグゼクティブ・ディレクター

岡本 和夫	東京大学名誉教授、 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 参与、 高大接続研究開発センター 特任教授
小川 雄一	東京大学名誉教授、 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 監事
沖 大幹	工学系研究科 教授、総長特別参与、 国連大学上級副学長
小野塚 知二	東京大学特命教授、 東京大学大学院経済学研究科 教授、 東大 EMP コチエア、 東京大学日本料理グローバル研究連携ユニット 代表
甲斐 知恵子	東京大学名誉教授、 生産技術研究所 特任教授
笠井 清登	医学系研究科 教授
梶田 隆章	東京大学特別栄誉教授・卓越教授、 宇宙線研究所 所長
梶谷 真司	総合文化研究科 教授
加藤 泰浩	工学系研究科副研究科長 エネルギー・資源フロンティアセンター 教授
香取 秀俊	工学系研究科 教授
金子 豊二	農学生命科学研究科 教授
亀田 達也	人文社会系研究科 教授
川添 善行	生産技術研究所 准教授、建築家
神崎 亮平	東京大学 先端科学技術研究センター 所長
木村 廣道	未来ビジョン研究センター、 ライフスタイルデザイン研究ユニット 特任教授
木本 昌秀	東京大学名誉教授、 国立研究開発法人国立環境研究所 理事長
久我 隆弘	総合文化研究科 教授
久保 文明	東京大学名誉教授、 防衛大学校 学校長
小玉 重夫	教育学研究科 教授
五神 真	理学系研究科 教授、 東京大学第 30 代総長
小林 康夫	東京大学名誉教授
小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長、 東京大学第 28 代総長
酒井 邦嘉	総合文化研究科 教授
佐野 雅己	東京大学名誉教授、 東京大学東京カレッジ 副カレッジ長・特任教授、 上海交通大学自然科学研究院 教授
清水 晶子	総合文化研究科 教授
宍戸 常寿	法学政治学研究科 教授

霜垣 幸浩	工学系研究科 教授
白波瀬 佐和子	人文社会系研究科 教授、 現代日本研究センター長
神野 直彦	東京大学名誉教授
菅 裕明	理学系研究科 教授
菅野 純夫	東京大学名誉教授、 千葉大学 未来医療教育研究機構 特任教授
杉山 将	新領域創成科学研究科 教授、 情報理工学系研究科 教授、 理学部 情報科学科 教授、 理化学研究所 革新知能統合研究センター センター長
諏訪 元	東京大学特別教授、 総合研究博物館特任教授兼務
関谷 直也	情報学環 総合防災所法研究センター 准教授、 東京大学卓越研究員
染谷 隆夫	工学系研究科 教授、 工学系研究科長・工学部長
高梨 直紘	東京大学エグゼクティブ・マネジメント・ プログラム 特任准教授、 東大 EMP セクレタリー・ジェネラル
高原 明生	法学政治学研究科 教授、 公共政策大学院 教授
竹下 政孝	東京大学名誉教授
武田 洋幸	理学系研究科 教授
丹下 健	東京大学副学長、 農学生命科学研究科 教授
月脚 達彦	総合文化研究科 教授
津田 敦	東京大学 執行役副学長、東大 EMP 室長、 大気海洋研究所 教授
東原 和成	農学生命科学研究科 教授
藤堂 具紀	医科学研究所 教授
富田 泰輔	薬学系研究科 教授
鳥井 寿夫	総合文化研究科 教授
永井 良三	東京大学名誉教授、自治医科大学 学長、 宮内庁皇室医務主管
中内 啓光	東京大学名誉教授、 スタンフォード大学 幹細胞生物学・ 再生医療研究所 教授、 東京大学医科学研究所 幹細胞治療部門 特任教授
中島 隆博	東洋文化研究所 教授、 東アジア藝文書院 院長
中須賀 真一	工学系研究科 教授
中邑 賢龍	先端科学技術研究センター 教授

根本 圭介	農学生命科学研究科 教授
納富 信留	人文社会系研究科 教授
野原 慎司	経済学研究科 准教授
芳賀 猛	農学生命科学研究科 教授
橋本 英樹	医学系研究科 教授
橋爪 真弘	医学系研究科 教授
羽田 正	東京カレッジ長
尾藤 晴彦	医学系研究科 教授
平尾 雅彦	工学系研究科 教授
福田 健二	農学生命科学研究科 教授、 新領域創成科学研究科 教授
藤田 誠	東京大学 卓越教授、 工学系研究科 教授
藤原 帰一	東京大学未来ビジョン研究センター長、 法学政治学研究科 教授
藤原 徹	農学生命科学研究科 教授
古澤 明	工学系研究科 教授
本田 由紀	教育学研究科 教授
松橋 隆治	工学系研究科 教授
丸井 浩	東京大学名誉教授、 武蔵野大学 特任教授
三坂 巧	農学生命科学研究科 准教授
水島 昇	医学系研究科 教授
水町 勇一郎	社会科学研究所 教授
宮本 久雄	東京大学名誉教授、 東京純心大学 教授
村山 斉	東京大学特別教授、 東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 主任研究者・教授
森井 裕一	総合文化研究科 教授
野城 智也	生産技術研究所 教授
柳川 範之	経済学研究科 教授
山梨 広一	東大 EMP エグゼクティブ・ディレクター、 東京大学総長室アドバイザー、 イオン株式会社 アドバイザー

横山 祐典	大気海洋研究所 教授
横山 禎徳	社会システムズ・アーキテクト、 生産技術研究所 特別研究顧問、 県立広島大学 経営専門職大学院 経営管理研究科 研究科長
吉田 直紀	理学系研究科 教授
山田 淳夫	工学系研究科 教授
頼住 光子	人文社会系研究科 教授
渡辺 浩	東京大学名誉教授

外部講師陣 [第25期プログラム]

(五十音順)

安達 保	株式会社ベネッセホールディングス 代表取締役会長 CEO
石川 一洋	NHK 解説委員
岩田 ヘレン	株式会社さすがコミュニケーションズ 代表取締役社長
金田 修	游仁堂 (Yo-ren Limited) CEO
川崎 達生	ユニゾン・キャピタル株式会社 代表取締役 パートナー
北川 フラム	アートディレクター
小島 岱山	真義臨済禅宗 管長、 元臨済宗向嶽寺派向嶽寺僧堂師家
高島 宏平	オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長
土屋 了介	株式会社エムティアイ社外取締役、 公益財団法人ときわ会顧問
堤 剛	チェリスト、日本芸術院会員、 サントリー芸術財団代表理事、 サントリーホール館長、 桐朋学園大学特命教授
中川 秀宣	TMI 総合法律事務所 パートナー 弁護士
野村 万蔵	狂言和泉流野村万蔵家 九代目当主
マリア・ピア・パガネッリ	トリニティ大学 教授
ロバート・フェルドマン	モルガン・スタンレー MUFG 証券 株式会社 シニア・アドバイザー
御立 尚資	ボストンコンサルティンググループ シニア・アドバイザー
山本 修	ユニゾン・キャピタル株式会社 パートナー
吉永 磨美	日本新聞労働組合連合 中央執行委員長

第26期プログラム

期 間	2022年4月8日(金)～2022年9月10日(土) ・オリエンテーション：4月8日～4月14日(日・火曜日を除く5日間、9:00～18:00) ・プログラム：4月15日～9月10日(毎金、土曜日、9:00～18:00) ・夏休み：8月1日～8月21日(3週間)
	芸術や文化の理解を深めるために、月に1～2回程度、 原則金曜日の夜に東大 EMP サロンを開催します
定 員	25名程度
受 講 料	5,714,285円(税別) ※特例あり
講 義 会 場	主に、伊藤国際学術研究センター EMP ラウンジ(東京大学本郷キャンパス内) ただし、感染症拡大防止の観点からオンラインで実施する可能性があります
受 講 対 象 者	・将来、組織を担う人材 ・通訳なしで英語の講義を理解できる者
応 募 書 類	募集要項に基づいて、所定の応募書類を出願書類締切日までに提出してください ※「募集要項」は東大 EMP ホームページ(https://www.emp.u-tokyo.ac.jp/) で閲覧可能
出 願 書 類 締 切 日	2022年2月2日(水)
面 接 日	2022年2月9日(水)
発 表	2022年2月14日(月)

スケジュール

■ = 講義日[全38日] □ = オリエンテーション[5日間] ■ = 夏休み

2022年4月							5月							6月						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
					1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30		

7月							8月							9月						
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
					1	2		1	2	3	4	5	6				1	2	3	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
31																				